



正木小だより

令和6年12月24日

まさき

仲良くなるための、「あ・い・う・え・お」

5年生が自然の家を出発するときに話した「校長の話」を紹介します。

自然の家の合宿のしおりには、「仲良くする」と書いてあります。仲良くするためには、言葉が大切です。今日は、自然の家の合宿で使うと仲良くなる言葉を紹介します。仲良くなるための、「あ・い・う・え・お」です。

あ：ありがとうね。い：いいね。う：うれしいね。え：えらいね。

お：おいしいね。「ね」が共通しています。

合宿中には、これらの言葉をたくさん聞きました。合宿が終わっても、「ありがとうございます。」と声をかけてくれる子もいます。思わず、私も「こちらこそ、ありがとう」と声をかけました。気持ちの良い朝のスタートです。

言葉には力があります。言葉はその人自身を表すと思っています。どんな言葉を使って、相手に話すか。どんな言葉を使って、頭の中で考えるか。言葉は思考の道具であり、仲良しになる道具でもあります。友達になりたいときに、どんな言葉を使うとよいでしょうか。仲良しの友達とは、どんな言葉を使って遊ぶとよいでしょうか。使う言葉を選ぶのは自分です。

子どもはどのようにして言葉を獲得していくのでしょうか。音声なら、友達や大人、身近な人が使っている会話。文字なら、本や新聞、雑誌などの記事。最近では、インターネット上の音声や文字もあります。子どもは、身の回りにある言葉から、それを使ってみようと考え、次第に言葉を獲得していくのではないのでしょうか。

もうすぐ冬休みになります。年末年始は、大掃除や大晦日、除夜の鐘、初詣などの行事があります。体験的学習活動等休業日として12月26日は、お休みです。家族で過ごす時間が増えると思います。年末年始は、「よいお年をお迎えください。」や「あけましておめでとうございます。」などの言葉があちらこちらから聞こえてくるでしょう。この機会に、お子さんの周りにはどんな言葉があるか、気にかけてみてはいかがでしょうか。5年生の合宿で紹介した「あいうえお」が一層、広まることを願っています。

校長 花村伸二